

# 和の国日本、 その源流を 考える。

奈良県知事  
あら い しょう ご  
荒井正吾氏

2010年平城遷都1300年祭のプロジェクトで、日本の成り立ちや東アジアの中の在り方などについて検証を重ねた奈良県。荒井正吾奈良県知事と川勝平太静岡県知事が「日本の形」の過去とこれからについて話し合った。

静岡県知事  
かわ かつ へい た  
川勝平太

荒井氏 私もそう思います。日本の国づくりの背景には663年に百済が唐・新羅に白村江で破れ滅びたことで、緊張した天智・天武天皇の心情があったのではないのでしょうか。  
知事 白村江の戦いには、倭国（日本）からも百済再興のための援軍が派遣されています。「日本書紀」によると、その中の指揮官の一人は、蘆原君臣（いおはらのきみおみ）という現在の静岡市の清水を本拠とした豪族でした。今でも清水に「庵原」という地名が残っています。百済は戦いに敗れて滅びましたが、朝鮮半島から日本列島へ逃げた百済王家とその子孫は、日本の国家づくりに貢献しました。「日本」という国号や「天皇」という称号、「平城京」という都などの国家のデザインには、藤原不比等が大きな役割を果たしました。また、「日本書紀」の編纂にも彼は深く関わっています。「日本書紀」では、百済王家の太子余豊璋（よほうしょう）を大変持ち上げていますが、私は、この余豊璋は不比等の父である藤原（中臣）鎌足だっただと考えています。  
荒井氏 藤原不比等は「日本書紀」が完成した720年に亡くなっています。つまり没後1300年は2020年の東京オリンピック・パ

日本の国家づくり

知事 荒井知事は、2010年の平城遷都1300年祭のプロジェクトを立ち上げられました。それがお付き合いの始まりでした。

荒井氏 委員長の平山先生（平山都夫氏、2009年没の代わりに行事などに参加していただけた方が探していた時、川勝さんの名前が挙がり、委員長代行をお願いすることになりました。その後、静岡県知事になられましたね。

知事 あのプロジェクトに参画したことは、奈良時代を軸にしながら日本史をグローバルに見直すきっかけになりました。日本の国家の成立は、日本最初の都城である藤原京の建設と軌を一にしている。平城京の奈良時代に確立しました。平山先生も「高耀（たかひか）る藤原京の大殿（おおどの）（1969）」という藤原京のイメージを初期の作品で描き、絶筆はその対となる「平城京の大同図」（2009）でした。私には、画伯が藤原京から平城京になるところで、「日本」という国のかたちの基本ができたことを表そうとしたように思えます。

知事 面白いですね。「日本書紀」は持統天皇が亡くなられたところで終わっています。そして次の文武天皇は不比等の娘である藤原宮子を夫人にしています。また、聖武天皇はその子供です。から不比等の孫ですよ。ね。その孫の妻は光明子（光明皇后）、この人も不比等の子供です。不比等は、「日本書紀」では自分の父親を大きく取り上げ、子供や孫は皇室に深く入り込ませている。

荒井氏 そして自分の業績はみな



消去して、「結果」だけを残してあの世に行ってしまった。

**知事** 不比等は正に埋もれた巨像ですね。

**荒井氏** デザインということでは、富士山と伊勢神宮の位置も興味深い。伊勢神宮から富士山を見ると夏至の太陽は富士山の後ろから上がってきます。二見浦は、それで有名です。また、藤原京の太極殿と伊勢神宮の外宮は、ほぼ真東西です。

**知事** 万葉集にも富士山を詠む歌が出てきます。最後の歌が大伴家持の歌ですから8世紀の中葉です。生没年は定かではありませんが、山部赤人も巻の三で富士山の長歌を詠んでいます。高橋虫麻呂にも長歌があります。和歌の調べで「国の鎮めである、神様である、宝である」と、芸術と信仰を一体のものとして歌っています。実際に見たことがあるかどうかは別にして、富士山が都の人々に霊山や霊峰として知られていたことは間違いありません。

**遊牧と農耕の信仰が一体化**  
**荒井氏** 古代の宇宙観を考えると朝廷の正殿である大極殿の大極は

北極星です。中国の道教などでは北極星は宇宙の中心です。一方、日本人はどちらかというと「アマテラスや「日出ずる処」に代表されるように太陽の方に引かれていたような気がします。

**知事** 私は両方ではないかと思いません。「大漢和辞典」諸橋轅次・大修館書店)には、「北極大帝」が天皇の原義であると出てきます。北極星が崇められているのです。ですから、天皇の称号の背景には北極星信仰がある。天空は北極星の周りを回ります。そして北極星の役割は、位置を知らしめることです。どういう人たちにとつて北極星が大事なのかと言え、遊牧民」です。北極星がないと位置が分からなくなりますから。

**荒井氏** 陸上の羅針盤ですね。  
**知事** そうです。北極星は遊牧民にとつて神様です。では、太陽はどうかというところ、「農耕民」の神です。エジプトにも太陽神があります。農耕民は、太陽の輝きが増す春に種をまき、夏まで育て、秋に作物を実らせる。やがて太陽がだんだん傾き作物

のできない冬になる。  
**荒井氏** つまり四季ですね。四季は

テイを理念的に言うならば「和」であるということが分かります。

**荒井氏** 奈良は「大和の国」で、とても調和の取れた土地なのですが、一方で、古い文物の中には、意味が分からないままに「置かれてある」ものがたくさんあります。あまりに多すぎて整理がつかない。残念な気がしています。

**知事** 「物」が目ざれがちですが、人と物は切り離せない。人と物で「人物」です。私はヒトとモノが一体で日本に入ってきたと思います。同時に思想も入ってきたはず。それらが奈良から流れ出て、それぞれの場所において潜在的な可能性を發揮したのではないかと思っています。東洋史学者の宮崎市定先生によると、南宋から北宋、あるいは元の時代に、イスラームの思想が中国に入ってきました。イスラームは偶像崇拜禁止です。唐の時代、仏教は仏像と一体ですが、宋代になると仏像を中心としない仏教が現れてきました。

「禪宗」です。私は、「禪」が偶像崇拜を禁止しているイスラーム教と深い関わりを持っているのではないかと思っています。そして、「禪」が日本に入り、鎌倉で禪の文化が花開いた。京都でも「禪」が広がりましたが、旧

来の仏像をあがめる文化を壊すことなく、京の都の周辺で「禪宗」の寺院である「京都五山」を作りました。つまり、ユーラシアの全ての文物は、奈良から始まって京都・鎌倉・室町では整理し終えたと思います。

**荒井氏** なるほど。奈良だけを見るから雑然としているように感じても、マクロの視点では、奈良から発して日本各地で文物の整理ができていくということですか。

**知事** 戦国時代にヨーロッパ人が来て、鉄砲や時計などが伝わった時、京都の周辺の安土・桃山地域で活用され、京都が壊されることはありませんでした。都を壊さず別の土地で新しいものを取り入れる流れは、やがて遠い江戸で新都市を作り出した。当時は未開の地であった関東で、城下町文化を作りあげたのです。

城の建設に大きな影響を与えたのは鉄砲です。鉄砲の起源は元王朝の時代に作られたものですが、後にヨーロッパに伝わり、大量に使われるようになりました。日本に伝来した鉄砲はヨーロッパ的な技術が入っています。

「天守閣」には西洋のキリスト教が影響しています。日本で初めて作られた安土城の「天守閣」は、当時「天

荒井正吾氏  
奈良県知事

1945年生まれ。東京大学法学部、米国シラキュース大学マックスウェル行政大学院卒業。運輸省において、観光部長、鉄道局審議官、自動車交通局長等を歴任。海上保安庁長官を務めた後、2001年参議院議員となる。2007年5月より奈良県知事。

太陽によって移ろっていきます。一方北極星は永遠です。

**知事** 「日の本」、「日本」という国号には農耕民の太陽信仰が入っています。一方、「天皇」という称号には遊牧民の信仰が凝集されている。したがってユーラシア大陸全体の農耕民と遊牧民、両方の神々が国号と称号となつて一体なのが日本の国の形と

いつことになります。

**倭から和へ**  
**荒井氏** 日本人とはどういうものかと考える時、古代に国際的な規模で交流があったとすれば、他国の影響を相当受けているはずですから、どこからどのような影響を受けたのか、そのルーツ探しが必要です。韓国や中国が眼前にあるので、その影響が大きいように思えますが、実際にはその奥、さらに遠くから来たものの影響も重要であると考えています。日本は辺境であつたけれど、グローバル世界の影響を受けた国柄であつたし、日本人の感性にもグローバルな志向がありました。それを出発点にして、これからのグローバル社会における東アジアの立ち位置、そし

て日本人が向かう立ち位置に対して何か教訓を得ようと考えています。  
**知事** 私も共感するところが非常に多いですね。日本は島国ですから、何でも海の道を伝わって来たと思えます。まずは関門海峡を通つて、難波に入り、難波は玄関、そして奥座敷が奈良です。奈良には、いろいろな方々が、いろいろな宝物を持って来ましたが、いろいろな宝物もありません。一神教の文物もありました。それら全てが奈良の中で見事に秩序立って存在していたのは、多様なものが相和していたということであると思えます。当初、我が国の表記は、「倭(わ)」という漢字を当てていました。ある時から「わ」の音をとつて、調和の「和」に変えました。この国は「大いなる和」であるから、「大和」と書いて「ヤマト」と読もう、という動きがあつたのではないのでしょうか。「日の本」についても同様で、「日本書紀」では「日本武尊」と書いて「ヤマトタケルノミコト」と読んでいます。そして今、私たちも「天和」を「ヤマト」と読みます。ですから、「和」が日本のコンセプトなのです。日本のアイデンティ

の主」の居城として「天守閣」と書き変りました。天主、つまりキリスト教の神デウスです。後に、字は「天の守」に変わりましたが、天主閣にはヨーロッパの「一神教の思想が入っている」と思っています。以後、城下町が発展し、その中心は江戸城でした。そして、明治以降、日本はヨーロッパ・アメリカ文明を模倣するところから入り、その水準を抜くところまで発展しました。それが今の東京の姿です。このように見ると、現代日本は、奈良を始まりにして、様々な文化が場所を変えながら花開き、大団円を迎えています。今、原点回帰して、もう一度「はじまりの奈良」から始めようとして荒井知事がおっしゃっていることは、自然な流れであると思います。時代が一巡したので、

**「和」の整理学を構築**  
**荒井氏** 今の私の関心事は整理学です。「和」に関して、「整理のロジック」をうまく作らなければいけないと思つています。「こういうように整理した」「やろうと思えば誰でもできるぞ」と言えるような「和」の整理学を構築できるか、そこに関心があります。

**知事** それは非常に大事なことで

て日本人が向かう立ち位置に対して何か教訓を得ようと考えています。

**知事** 私も共感するところが非常に多いですね。日本は島国ですから、何でも海の道を伝わって来たと思えます。まずは関門海峡を通つて、難波に入り、難波は玄関、そして奥座敷が奈良です。奈良には、いろいろな方々が、いろいろな宝物を持って来ましたが、いろいろな宝物もありません。一神教の文物もありました。それら全てが奈良の中で見事に秩序立って存在していたのは、多様なものが相和していたということであると思えます。当初、我が国の表記は、「倭(わ)」という漢字を当てていました。ある時から「わ」の音をとつて、調和の「和」に変えました。この国は「大いなる和」であるから、「大和」と書いて「ヤマト」と読もう、という動きがあつたのではないのでしょうか。「日の本」についても同様で、「日本書紀」では「日本武尊」と書いて「ヤマトタケルノミコト」と読んでいます。そして今、私たちも「天和」を「ヤマト」と読みます。ですから、「和」が日本のコンセプトなのです。日本のアイデンティ

すね。  
**荒井氏** 「私なりの整理だ」と言ってしまうと、それはカスタマイズされた整理にすぎません。スタンダード化された整理になっているところがグローバルで通用する「和」なのだろうと思つています。でもなかなか難しいですね。日本の文物だからと言って、日本人だけでやり遂げるのは難しいかもしれません。

**知事** そのとおりですね。外から人を「受け入れる」ことが大切です。この「容れる」という包容力、包摂力、多様なものを許すということが大和(だいわ)です。それが日本流、ヤマト流であると言えれば分かりやすい。  
**荒井氏** それができるのは日本だけではないと思つていますし、どううまくやるのかも教えていく必要があります。まだまだ緒にも就いていない感じですが。

**知事** いろいろな模索するしかありませんが、その方向性は正しいと思つています。深く共感するところがあります。私もついでに行きますよ。  
**荒井氏** 今後ともよろしくお願ひいたします。

**知事** こちらこそよろしくお願ひします。

(平成26年9月9日 静岡県庁知事室にて)

